



奥入瀬溪流銚子大滝

十和田湖



美の限りを尽くしてもてなす 十和田湖・奥入瀬溪流

十和田八幡平国立公園十和田八甲田地域は、7月、環境省の外国人訪日客誘致のための「国立公園満喫プロジェクト」のモデル公園に、全国8カ所とともに選ばれました。今号は十和田八甲田地域の十和田湖・奥入瀬溪流を紹介します。

特集

■山岳霊場と十和田鉾山
十和田湖畔休屋の十和田神社は、鎌倉時代前から東北地方の山伏の修行場として、出羽の羽黒山とともに有名な聖地でした。藩政時代、南部藩は十和田神社を恐山とともに藩内の二大霊場として、信仰の地としていました。
十和田神社への参詣コースは、奥瀬の仙ノ沢から山道を歩き、四和村や三戸郡からの道と合流して惣迎に至り、そこから多くの難所を抜け、銚子大滝に出る道でした。
十和田湖が世間に知られるようになったのは、1665(寛文5)年に外輪山の十和田山に鉛鉾が発見され、1719(享保3)年に銀鉾が発見されてからです。この鉾山は十和田鉾山といわれ、1882(明治15)年頃まで栄えましたが、鉾脈が尽きた1893(明治26)年頃から衰退に向かい、1897(明治30)年には廃坑となります。
十和田湖の鉾山は藩政時代、南部藩五戸代官所の支配地だったので、鉾山までの道を拓く必要がありました。五戸の藩士木村又助秀晴は、5年

の歳月を費やし霊場十和田山へ通じる新道を完成させました。
このほか、休屋に開拓者として最初に居住した秋田県鹿角市出身の栗山新兵衛や、宇樽部へ五戸から新道を掘削し、宇樽部盆地を開墾した三浦泉八など、青森、秋田両県の先人が開拓に貢献しています。
■十和田の名は全国に
1953(昭和28)年に高村光太郎作「乙女の像」が十和田湖畔に建てられました。この台座には、十和田国立公園の実現に奔走した大町桂月、武田千代三郎、小笠原耕一の3氏の功績が刻まれています。「住まば日本 遊ばば十和田 歩きや奥入瀬の 三里半」これは、十和田を全国的に知らせた高知県出身の詩人、大町桂月の一首です。
1908(明治41)年に大町桂月は初めて十和田湖を訪れました。その後、1921(大正10)年、1921(大正10)年、1925(大正14)年に蕨で

十和田湖の歴史と未来

■大噴火がモデル
南祖坊と八乃太郎伝説
十和田湖は、約20万〜15万年前の噴火活動によって、中央部が陥没、3万5000年前〜1万5000年前に起きた巨大噴火によって、窪地に水が溜まってカルデラ湖となりました。平安時代の915年には十和田湖最後の噴火が起り、北東北に大きな被害をもたらしました。京都で記された「扶桑略記(※)」に「朝日に輝きがなく、まるで月のようなだった」とあり、約900キロ離れた京都でも、その規模が分かるくらいの大噴火でした。その恐ろしい光景が「南祖坊と八乃太郎伝説」になったともいわれています。その後、大洪水によって外輪山の一部分が決壊し、水が台地を削りながら深い谷を作り、やがて奥入瀬溪流となりました。この溪流は十和田湖から流れ出る唯一の川となっています。

私は南祖坊
これから
十和田湖を
紹介するよ



奥入瀬溪流は、春は新緑、花咲く季節。夏は深緑、岩肌を流れる滝。秋は広葉樹の葉が黄、橙、赤色と装いを変え華やかに彩ります。
十和田湖の中湖は旧噴火口。水深は327メートルあり、湖では日本第3位の深さを誇り、湖の底からは水が湧き出しています。
十和田八甲田地域は、9月下旬に始まる八甲田山の紅葉から、11月初旬の奥入瀬溪流の紅葉まで、紅葉の秋を楽しむことができます。その中でも十和田湖畔の紅葉が一番美しいといわれ、10月中旬から下旬にかけて、その美しさは頂点に達します。美しさの源は、植物の種類が豊富で生態が良好なこと。湖と奥入瀬周辺の植物だけでも種類は230余り。それらの色彩が見事に表現されます。
11月に入ると湖の紅葉は真紅の色が目立ち、青い湖面とのコントラストに観光客は目を奪われます。

(※) 神武天皇の673年から堀河天皇の1094年までの編年史



十和田神社参道

十和田神社

ホテル十和田湖荘前から延長900m、現存する歴史的に貴重な十和田神社への参道「休屋杉並木」。十和田神社は山岳霊場として十和田信仰の参詣人が賑わっていた。休屋の名は参詣人が泊まる所。十和田湖自然ガイドクラブと町内会によりチップ舗装が進められている。



大町 桂月
明治～大正の近代詩人、随筆家、評論家

りました。この桂月の文筆活動の効果で、景勝地としての十和田の名は全国的に知られるようになります。